

9日 金曜

列王Ⅱ

21:1 マナセは十二歳で王となり、エルサレムで五十五年間、王であった。彼の母の名はヘフツィ・バハといった。

21:2 彼は、【主】がイスラエルの子らの前から追い払われた異邦の民の忌み嫌うべき慣わしをまねて、【主】の目に悪であることを行つた。

21:3 彼は父ヒゼキヤが打ち壊した高き所を築き直し、イスラエルの王アハブがしたように、バアルのためにいくつもの祭壇を築き、アシェラ像を造り、天の万象を拝んでこれに仕えた。

21:4 こうして彼は、【主】がかつて「エルサレムにわたしの名を置く」と言われた【主】の宮に、いくつもの祭壇を築いた。

21:5 【主】の宮の二つの庭には、天の万象のために祭壇を築いた。

21:6 また、自分の子どもに火の中を通らせ、ト占をし、まじないをし、霊媒や口寄せをし、【主】の目に悪であることを行って、いつも主の怒りを引き起こしていた。

21:7 彼はまた、自分が造ったアシェラの彫像を宮に安置した。【主】はかつてこの宮について、ダビデとその子ソロモンに言われた。「わたしは、この宮に、そしてわたしがイスラエルの全部族の中から選んだエルサレムに、わたしの名をとこしえに置く。

21:8 もし彼らが、わたしの命じたすべてのこと、わたしのしもべモーセが彼らに命じたすべての律法を守り行いさえするなら、わたしはもう二度と、彼らの先祖たちに与えた地からイスラエルの足を迷い出させない。」

21:9 しかし、彼らはこれに聞き従わなかった。



マナセは彼らを迷わせて、【主】がイスラエルの子らの前で根絶やしにされた異邦の民よりも、さらに悪いことを行わせた。

父ヒゼキヤが良い王であったにも関わらず、マナセは悪を行いました。信仰に関しては親の影響は大きいのですが、最期は本人の決断です。親がクリスチャンだから、その子ども自動的に救われるというものではありません。「主イエスを信じなさい。そうすればあなたも、あなたの家族も救われます」というパウロのことは、個人的な励ましとして受け取ることはできますが、普遍的な原理ではないのです。

マナセの行いについて、「イスラエルの王アハブがしたように」とあります。不信仰にもやはりパターンがあるようです。悪い不信仰な行いからも、反面教師として学ぶことができます。自分自身がそのパターンを持っていないかどうか、考えてみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

